

---

# 皆が他人の心の声が聞こえたら

AKIRA

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

皆が他人の心の声が聞こえたら

### 【Nコード】

N3938B

### 【作者名】

AKIRA

### 【あらすじ】

皆が誰かの心の声が分かるとしたら…という事を考えてみた時の話。ちよい哲学？な感じで書いてみました。

## （前書き）

急にこんな事を考えてしまった自分がよく分からない。でもなんか書いてみてしまった。ちょい見てもらうだけでいいです。

一度は思った事があるはず、  
『人の心の声が分かれればケンカやいがみ合いをしなくて済むのに』  
と。

でもどうだろうか？一つ仮定を挙げよう。

たくさんのお福袋がある。それを買う時の気持ち、誰だって分かるはず。中身は何かなあ、と期待と不安を抱いて一つ買う。当たりの時は本当に嬉しい。だけど、ダメだった時は悔しいが、中身が分からないで買ったからしょうがない、とすぐに立ち直る事が出来るはず。

これを置き換えれば分かるだろう。

話をする時、皆がどういう反応をするかと心で期待と不安が入り交じる。皆が期待通りの反応だと嬉しいし、思いもしなかった反応だと悔しいが、親しい仲間同士だとしょうがないとも思える。

これが一般的な感覚だと僕は思える。

ではどうだろうか？心が分かると言う事はそんな事を考える必要はないはず。

この人はこう思っているから、こんな事言ったらダメだと分かって最善の事を言って済ます事が出来る。だけど相手がどんな反応をしたとしても悲しさも悔しさも無いが、嬉しさも楽しさも無い。

こんな日常なんか楽しくも何ともない。

結局人の心なんて分からない方がいいのだ。神様はいつもいい奴では無いが、この世界の皆に心を読む力をくれなかった事には感謝をする。

話を戻すと、だからこそ人は人と交わりながら生きていくのだ。誰かと共に笑い、誰かと共に泣き、誰かと共にまた笑う。そんな当たり前の幸せに気付いていないだろう。だけどそれでいいのだ。そう僕は思う。

（後書き）

何だろう……。あまりこんなキャラじゃないのですが、ふと思った事を書いてしまいました。誰か助けて！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3938b/>

---

皆が他人の心の声が聞こえたら

2010年10月29日06時09分発行